

- 問1 古墳時代、各地の有力者が巨大な墓を造りました。その中でも、上から見ると鍵穴のような独特の形（一方が四角形で、もう一方が円形）をした、日本独自の形式の古墳を何と呼びますか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-------|----------|-------|
| 1. 装飾古墳 | 2. 方墳 | 3. 前方後円墳 | 4. 円墳 |
|---------|-------|----------|-------|
- 問2 3世紀ごろの中国大陆では、複数の勢力が対立して覇権を争っていました。この時期、日本の邪馬台国の女王である卑弥呼が使いを送り、「親魏倭王」の称号を授かったとされる国が含まれる時代の名称を選びなさい。（2016年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|
| 1. 戦国時代 | 2. 三国時代 | 3. 五代十国時代 | 4. 南北朝時代 |
|---------|---------|-----------|----------|
- 問3 巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|------|----------|------|
| 1. 唐 | 2. 漢 | 3. 中国の南朝 | 4. 隋 |
|------|------|----------|------|
- 問4 古墳時代、朝鮮半島や中国から日本列島へ移り住んだ渡来人によって伝えられたもので、日本における記録や公文書作成の基礎となった文字を次の中から選びなさい。（2019年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| 1. ひらがな | 2. ローマ字 | 3. 漢字 | 4. カタカナ |
|---------|---------|-------|---------|
- 問5 古墳時代に築かれた、円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形状を持つ巨大な墓について、その名称と当時の状況を正しく述べたものはどれですか。（2026年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 名称は装飾古墳であり、ヤマト王権から独立した九州地方の豪族のみが、独自の文化を示すために築いた。 | 2. 名称は方墳であり、ヤマト王権が全国の土地を直接支配するために、各地の役所の目印として設置した。 | 3. 名称は前方後円墳であり、ヤマト王権の勢力が及んだ東北地方から九州地方にかけての広い範囲で見られる。 | 4. 名称は円墳であり、大和地方から移住した渡来人たちが、故郷の風景を再現するために全国に広めた。 |
|---|--|--|---|
- 問6 4世紀から6世紀にかけて朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、仏教のほか、機織り、土木、金属加工といった大陸の進んだ技術を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 遣隋使 | 2. 渡来人 | 3. 御家人 | 4. 防人 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問7 大阪府堺市に位置する大山古墳（仁徳天皇陵）について、その特徴を地形図から読み取った場合の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 長方形の墳丘が二重の濠に囲まれ、周囲に倍塚と呼ばれる小規模な円墳が直線状に並んでいる。 | 2. 正方形の墳丘が三重の石垣によって囲まれ、その中心部に巨大な石室が露出している。 | 3. 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。 | 4. 円形の墳丘が等高線によって示され、周囲には濠がなく、標高の高い山地の中に独立して築造されている。 |
|--|--|---|---|
- 問8 大和政権が朝鮮半島や中国大陆から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため | 2. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため | 3. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため | 4. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため |
|--|---|---|---|
- 問9 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 | 2. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。 | 3. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。 | 4. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。 |
|--|---|---|---|
- 問10 熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀と、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、いずれも「ワカタケル大王」の名が刻まれていました。この事実から推測される、5世紀ごろの大和政権の勢力範囲に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 大和政権の勢力は、大陸の影響を強く受けていた九州地方のみに限定されていた。 | 2. 大和政権の勢力は、近畿地方とその周辺の非常に狭い範囲に限定されていた。 | 3. 大和政権の勢力は、東北地方から九州南部に至る日本列島のほぼ全域を支配していた。 | 4. 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。 |
|--|--|--|--|
- 問11 古墳時代に朝鮮半島から渡来人が渡ってきた時期の文化についての説明として、渡来人が伝えた土器の特徴を表しているものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|
| 1. 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器 | 2. 薄手でかたく、赤褐色をした弥生土器 | 3. 低温で焼かれた、あつ手で褐色の縄文土器 | 4. 表面に縄目の文様がつけられた深鉢形の土器 |
|-----------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|
- 問12 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。 | 2. 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。 | 3. 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。 | 4. 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。 |
|---|---|---|---|
- 問13 5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|----------------------------------|-----------------------|
| 1. 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可 | 2. 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利 | 3. 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権 | 4. 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権 |
|----------------------------------|------------------------------|----------------------------------|-----------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 前方後円墳	3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。
問2	答え 2 三国時代	3世紀の中国大陸では、魏、呉、蜀の三つの国が並び立ち、互いに勢力を争っていました。この時期を三国時代と呼び、日本の邪馬台国の女王・卑弥呼は、その中の一つである「魏」に使いを送り、金印や銅鏡を授かることで自らの権威を高めようとしていました。
問3	答え 3 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讃・珍・済・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問4	答え 3 漢字	古墳時代に大陸の進んだ技術や文化を持った人々（渡来人）が日本列島へ移住した際、儒教や仏教とともに伝えられたのが漢字です。これにより、それまで文字を持たなかった日本において、出来事の記録や政治的な文書の作成が可能となりました。ひらがなやカタカナは、後にこの漢字を崩したり、一部を取ったりすることで日本独自の文字として発展したものです。
問5	答え 3 名称は前方後円墳であり、ヤマト王権の勢力が及んだ東北地方から九州地方にかけての広い範囲で見られる。	前方後円墳は、日本独自の古墳形式であり、その分布は北は東北地方から南は九州地方にまで及んでいます。これは、各地の豪族がヤマト王権を中心とする政治秩序に参加していたことを意味します。装飾古墳は内部に彩色や彫刻があるものを指し、円墳や方墳はより一般的な形状ですが、前方後円墳ほどの政治的象徴性は持ちません。また、古墳はあくまで豪族の墓であり、役所の目印ではありません。
問6	答え 2 渡来人	4世紀から6世紀にかけて、朝鮮半島の戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは渡来人と呼ばれ、大陸の高度な技術や文化を日本へもたらしました。彼らが伝えた漢字は、後の公文書作成の基礎となり、仏教の伝来は日本の文化や政治のあり方に大きな影響を与えました。
問7	答え 3 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。	古墳時代中期を代表する大山古墳（仁徳天皇陵）は、前方後円墳という日本独自の形式を持つ巨大な古墳です。地形図上では等高線によってその独特な「鍵穴型」が描かれ、さらに墳丘を保護するように三重の濠が巡らされていることが確認できます。また、周囲には「倍塚（ばいづか）」と呼ばれる、被葬者の親族や家臣を葬ったとされる小規模な古墳が点在しているのも、この地域の歴史的景観の大きな特徴です。
問8	答え 1 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問9	答え 1 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんざうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問10	答え 4 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。	九州（熊本県）と関東（埼玉県）という、当時の交通手段では非常に遠く離れた2つの地点から同じ大王の名を記した刀剣が出土したことは、大和政権の支配力がその両地域にまで及んでいたことを客観的に証明するものです。一方で、この時代の支配が東北地方にまで及んでいたことを示す証拠は見つかっていないため、範囲の特定には注意が必要です。
問11	答え 1 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器	渡来人は朝鮮半島から新しい技術をもたらししました。その一つとして、窯を用いて高温で焼き上げる、かたくて灰色の須恵器をつくる技術が伝えられました。
問12	答え 4 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問13	答え 3 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権	5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讃・珍・済・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。